

白藤プロジェクト

石破農水大臣と食育・農業を熱く語り合う

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

幻の酒「白藤郷」の新酒をモンペ姿で贈呈！予定を大幅にオーバーし40分！

白藤復活の意味
白藤は江戸末期から昭和初期にかけて、酒用・米飯用として新潟で広く栽培されていた、ずんぐりむつくりのコロコロした粒の小さな品種です。しかし酒米の高度精米化による大粒化、背丈が伸

「米の品種で知っているものをあげて」と消費者に質問したら、「コシヒカリ」「あきたこまち」「きらら397」と答えるのではないのでしょうか。「ミルクイーン」「ササニシキ」をあげたならば、なかなか米にこだわっている人もみれません。いづれの米も、戦後品種改良された換金性に優れたメジャーな品種です。しかし、日本には従来の名もつかない「地酒」なため「地米」が各地にありました。気候風土にあった地米も米作の画一化、品質の規格化の波にさらわれ姿を消していました。

白藤を復活するに当たり生産から加工、消費に至るまでのプロセスを、学生・酒蔵・生産者が共に歩むことを目指しました。生産は生産者だけ、加工(酒蔵)は加工だけ、消費は

びるといいう栽培のしづらさなどから、いつしか絶滅してしまいました。「鳥またぎ米」といわれた新潟平野が泥沼の「潟」の時代に、農家から選ばれ生き延びた米です。言い換えるならば厳しい栽培環境の中で在野の農家が育てた大切な地域資源が白藤です。この時代は、酒用・米飯用の区別がなかったように、農家は生産するだけ、消費者は食べるだけの分業社会ではなく、渾然一体としていたように思います。



白藤プロジェクトでは、中越大地震の被災地の山口町での台所交流、中越

「鳥またぎ米」といわれた新潟平野が泥沼の「潟」の時代に、農家から選ばれ生き延びた米です。言い換えるならば厳しい栽培環境の中で在野の農家が育てた大切な地域資源が白藤です。この時代は、酒用・米飯用の区別がなかったように、農家は生産するだけ、消費者は食べるだけの分業社会ではなく、渾然一体としていたように思います。



白藤プロジェクトでは、中越大地震の被災地の山口町での台所交流、中越

「鳥またぎ米」といわれた新潟平野が泥沼の「潟」の時代に、農家から選ばれ生き延びた米です。言い換えるならば厳しい栽培環境の中で在野の農家が育てた大切な地域資源が白藤です。この時代は、酒用・米飯用の区別がなかったように、農家は生産するだけ、消費者は食べるだけの分業社会ではなく、渾然一体としていたように思います。

沖地震の募金活動などを行っていたので、今年卒業し、東京都の小学校で栄養士として食育の道を歩み始めた松本恭子さんが代表して意見を述べました。大臣は「選択減反制度」についても言及されました。「自らの経営判断で生産調整するのか、しないのかを選択できない制度はおかしい」と語気を強められました。日本農業に経営者が育つ土壌がなく、国等からのお仕着せされた生産調整ではなく、自らの経営の意思が欠落した制度の改革こそが農業再生への第一歩と確信されているように感じました。

はんぶん米の表示問題に
はんぶん米の表示問題に
はんぶん米の表示問題に

今回の訪問は、首相官邸の「立ち上がる農山漁村」に白藤プロジェクトとはんぶん米がダブル選定された式典の交流式で、大臣に白藤郷を試飲してもらったことから始まりました。大臣に生産者の阿部信行さんがはんぶん米を渡し、中越大地震からの体験で開発したことを説明。しかし、健康増進法などの関係法令の規制のために、成分や説明などの表示が一切できないため、食事制限者に伝わらず返って不利益になっていることを説明。大臣から表示の問題に1枚にまとめてレポートするように指示を受けました。

今回の訪問は、首相官邸の「立ち上がる農山漁村」に白藤プロジェクトとはんぶん米がダブル選定された式典の交流式で、大臣に白藤郷を試飲してもらったことから始まりました。大臣に生産者の阿部信行さんがはんぶん米を渡し、中越大地震からの体験で開発したことを説明。しかし、健康増進法などの関係法令の規制のために、成分や説明などの表示が一切できないため、食事制限者に伝わらず返って不利益になっていることを説明。大臣から表示の問題に1枚にまとめてレポートするように指示を受けました。



今回の訪問は以下に掲載されています



石破茂オフィシャルブログ

日本の農業を立て直す

http://ishiba-shigeru.cocolog-nifty.com/blog/2009/06post-90e8.html

6月1日のブログに掲載していただきました。

健康ビジネス連峰

6/9UP

http://www.kenko-biz.jp/oshirase101/

お知らせ・新規事業欄に掲載されています

《続き》
 農水省では機能性農産物を多額の税金を投入して育種・開発していきまう。しかし、表示ができれば流通にのることにはありません。有益な国の宝がお蔵入りしていきまう。

又、食品以外にも健康関連の商品が過度な規制を受けて市場が縮小するばかりで産業界にもなりません。ゴールデンウィーク前には、経済産業省関東経済産業局長・塚本修様らが、はんぶん米の表示問題について当社に調査で来社されました。新たに消費者庁ができる中で、規制の強化だけでなく消費者が選択できる表示・伝達方法、農工商連携の産業界の育成の観点から、省庁を超えて石破大臣に関わっていただければと願います。



控え室で大臣との対面を待つ、緊張の面持ちの参加者。SP、秘書官たちはモンペに笠姿の学生にビックリ!

マイコトキシン検査協会をご存知ですか?



マイコトキシン検査協会

http://www.mycotoxin.or.jp/

東京家政大学教授で、医師・医学博士の中村信也先生は、厚労省出身同省から依頼を受けて昨年、(財)マイコトキシシン検査協会の理事長を兼職しています。マイコトキシシンは昨年世間を騒がせた輸入米に付着した「カビ」。同検査協会では厚労省の登録検査機関としてカビを始め残留農薬検査などを命令検査・自主検査いずれも行います。

検査希望の方は(有)エコ・ライス新潟にお申し出ください。特価での検査を検討して頂けるということです。

県内健康ビジネス企業のトップが参加

新潟県健康ビジネス連峰を推進する産業界労働観光部の呼びかけで、秋の「うおぬま会議」に向けて、健康ビジネスを志向する民間の異業種を結集して、「健康ビジネス商工会(事務局(案))」を設立して、県が後押しするという構想です。

会議には(株)ブルボン吉田社長を始め、越後製菓(株)、亀田製菓(株)、(株)雪国(株)大庄といった、(株)大庄

など県内を代表する企業に加え、(有)エコ・ライス新潟のような零細企業まで、健康ビジネス連峰の支援事業に採択されている企業が集結しました。

各社の自己紹介で、(有)エコ・ライス新潟阿部社長は、「はんぶん米が東京都に納入が決まった後、厚労省からパッケージの表示について指摘があり困った」と実例を挙げて説明しました。健康ビジネスの最大の問題は「表示」につきまう。各社、それぞれ苦い経験があり、消費者利益の観点か

「新潟県の健康ビジネスを考える会」開催

らも改革が必要で、官民学あけて取り組むことが確認されました。



21年産より フレコンパックでの 出荷対応施設導入します!

「30kg袋が重くてかなわん」「秋作業が間に合わない」との声が寄せられる中、フレコン対応施設を整えました。併せて、フレコンパックの取扱いも開始します。



フレコンパック(1ウェイ) 10枚梱包

(1,020kg) 1,700円/枚(税別)

30kg紙検査袋 100枚梱包

75円/枚(税別)

6月26日(金)までにお申込ください

詳しくは同封の申込書をご覧ください。